

山間部における学校統廃合が地域力に与える影響に関する研究

A study on the influence of the consolidation of schools in mountainous regions for community empowerment

建築計画分野 豊住 由貴

本稿は、学校統廃合が全国的に進展する中で、統廃合が行われた地域の文化的・社会的な資源やコミュニティのまとまり・活動、地域に対する住民自身の関心・愛着などがどのように変化したのかを明らかにすることを目的としている。統廃合の行われた地域住民へのヒアリング調査を通して、これまで一般論として語られてきた学校統廃合による地域力の変容を明らかにしており、過疎化社会において重要な示唆を与えるものと考えられる。

This study aims to unfold how the subject area's cultural and social resources, its coherence within the community, and the interest and attachment of its residents changed in the midst of nationwide progressing mass school integration. Through conducting resident survey in the subject area, it reconfirms the general theory about the transition of the community empowerment due to the integration of its school, and could be thought of as an important indication to the depopulation agenda.

1. 研究の背景と目的

市町村の合併や少子化に伴い、児童数の減少による学校統廃合が全国的に進行している。近年では過疎化地域だけでなく、都心部でも学校統廃合は増加し続けている。幼い子供とその若い両親が地域の行事に活気を与えたり、集会を行う場所を提供したりと、小学校は特に山間部等の過疎地域では地域の中心的存在である。また、幼少期の多くの時間を過ごした学校は住民にとっては昔を懐かしく思い出す、記憶の媒体のような役割も果たしている。地域コミュニティの持続が問われる中で学校統廃合はその地域にとって大きな課題となる。学校が小規模化すると、大人数による授業が出来ない為に子どもの社会性や競争心が育たないこと、クラブ活動などが成り立ちにくいこと、学校行事の盛り上がり欠けることなどが一般に問題として指摘されている。

本研究では、小学校の学校統廃合の行われた山間部の地域を対象として、地域の資源・活動・人々の関わりや愛着が学校統廃合によってどのように変容していったのかを見出す。また、小規模校・過疎化地域での育児・教育の実態を明らかにする。これらを踏まえて学校統廃合が地域力に与える影響を実証的に明らかにすることを目的とする。

2. 研究の位置付け

学校統廃合については様々な視点で多くの研究が行

われているが、学校統廃合が行われた地域がどのように変容したのか、地域を主体とした視点で記述している研究はほとんどない。本研究は閉校以前から学校と密接な関係を築いてきた地域がどのように統廃合を契機に変容し、現在に至っているのかを緻密に見ていくことに特徴があり、独自性がある。

3. 地域力の定義

本研究では統廃合前後での地域の変化を「地域力」という視点を指定して解明する。地域力という言葉は宮西悠司が提唱した言葉であり、阪神淡路大震災の際に災害に強い地域を形成する上での原動力として注目された。地域力という言葉は様々な分野で定義されるようになったが、ここでは「地域住民が生活における問題を共同で解決する為の力」とする。

4. 調査概要

調査対象は、大阪府・京都府・奈良県・和歌山県の山間部で学校統廃合もしくは小学校の休校の行われた旧校区である。閉校前から現在に至る地域コミュニティの概要、校舎利活用、自治体活動や祭礼等の実態などをヒアリング調査する。更に調査対象の人口推移のデータを活用し、廃校前後での人口の変動を比較する。ヒアリング調査の対象は、①旧校区の自治組織の会長や、②旧校区の地域住民、③各市町村の役場、④地域住民以外の跡地活用に関係している団体④元学校関係者・教育委員会である。

6.2 学区内居住人口と児童数の変遷 人口減少は廃校以前から全ての学区で発生している。廃校前後での変化を見ると、C、Dの旧小学校校区で廃校以前よりも大きな人口の減少が発生している(図1)。D小校区では廃校直後の平成21年の転出者が例年よりも増加している(表4)。

統合前後での児童数の変化を見ると、統合された小学校の児童数と統合先の小学校の児童数を足した数よりも統合後の児童数が少ないが、これは統合前年の卒業生が多かったことなどが関係しており、学校統廃合が行われても、旧校区の多くの児童はそのまま統合先の小学校へ通っていることを示している。以上より、学校統廃合が行われると統合校区全体では児童数の極端な減少は発生しないが、旧校区から人口が流出していると考えられる。

6.3 自治組織活動 各調査対象の自治組織の活動は、清掃から古紙・廃品回収、道路、山の整備といった作業から、祭りや行事の準備、また住民の生活を支える活動を行っている。過疎化が進行した校区の運動会は、地域側がその準備から競技への参加まで全力でバックアップを行う事で成り立っており(表5[3])、自治組織がほとんどのケースでこれに絡んでいる。運動会の機会に自治会、老人会、婦人会、青年団が一度に集まり一つの事柄を成し遂げることは地域の活力や、住民の結束力の維持に大きな影響を与えている。しかし、学校の統廃合を機にその規模が縮小し、E小校区の場合では運動会が消滅してしまっている。このことを寂しがり、喪失感を覚える意見も多く、学校統廃合に伴う運動会をはじめとする学校行事の消滅は、自治会組織の活動に大きな影響を与えているといえる。

6.4 祭礼等の文化的資源 都市化が進んでおらず昔から神社や宗教などの文化的資源を大切にしてきた地域では、現在も神輿を担いだり、神楽や獅子舞を奉納する祭りを毎年行っている。獅子舞や神輿を担ぐのは若者の力が必要となるが、全ての対象地域で少子高齢化が深刻な問題化しており、神輿を担ぐのを数年に1度に変更したり、毎年同じ日に行っていた祭りを、地域外住民が帰ってきやすいように週末へ変更したり、昔は厳しい条件をクリアした者だけが行う事の出来た伝統芸能の奉納をほとんどどんな人でも行う事が出来るようなレベルまで条件を低くすることで、存続・保全を行っている(表6[7]~[9])。学校統廃合でより強く影響を受けたのは祭礼以外のその他の文化的資源である。具体的には旧校区の地域に伝わっている歌や踊り、伝統的な衣装である。これらの地域独自の文化資源は学校行事を通して継承されてきた。学校が統廃合されることで、地域独自の文化資源を披露する場所、機会を失ってしまった(表6[10]~[12])。

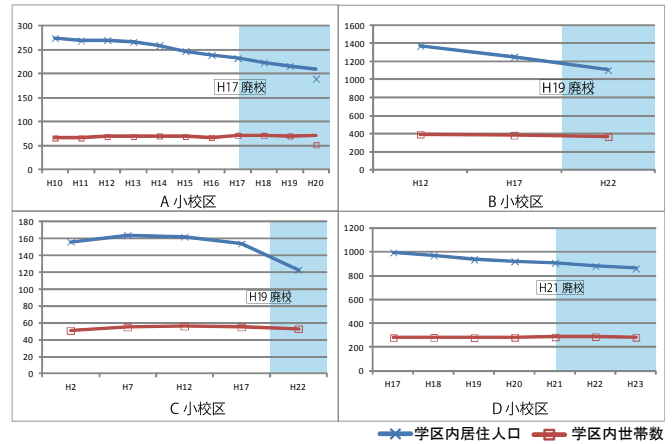


図1 居住人口の推移

表4 旧D小校区の人口推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23
人口	973	939	922	910	882	862
世帯数	283	282	285	287	290	285
出生者	4	3	3	2	1	3
転入者	10	3	4	12	5	12
転出者	22	19	8	23	16	9
増減		-34	-17	-12	-28	-20

表5 自治組織活動の変容

運動会—廃校前	
[1]	運動会で言うと、基本的に運動会は学校の運動会と地域の運動会を一緒になってやってくるんですよ。その時に、大体交互に競技をやっていくんです。小中学生やったら、地域の方が徒競走やって、でその次に玉入れやったら地区の人が玉入れする。…で、ほとんど交互でやって、それで勿論上の町と下の町で別れて、対抗戦があるんですよ。で、子どもたちは自分たちの班分けがあるんですよ、その班分けに関係なく、上の町に住んでるから上の町応援するか、下の町に住んでるから下の町を応援するとかもありますし。
[2]	まあでも、行けんども、音楽が流れてくるさかい、なあ、分かっているみたい。聞こえなくても、向こうの山から、練習風景が見えるとかね。太鼓も叩いたりいろいろしてたもんで、やってくるやってくるっていうのは言ってるた一人暮らしのおばあさんもおるけどね。やっちゃるねっていつ、いつも行くんよって言うて、それがやっぱりもう、見れんとなると、寂しいなって。
[3]	住民A:自分の子どもが学校いる時はね、顔出してたし、こは小学校自分の子どもじゃなくてもね、運動会とか言うのは地域ぐるみの運動会だったんで。住民B:消防と、婦人会と、老人会と、自治会、住民C:全部がそう。
運動会—廃校後	
[4]	場所は学校の場所を借りて、ただもう、運動場自体も使っていないで草生え放題だった。準備とかも一時間二時間増えるし。で、綱引きしようとして綱が無いよ、とか言うのは、やっぱり今まであったものが無くなって。それはやっぱり不便利だと思いますね。(中略)参加する世代が段々上がって行って。昔からお年寄りの方も、杖ついて歩いてた人が杖ほっぽり出して走るぐらいの。そんな地域だったんですけど、それを、やっぱり子どもたちが、「あそこのおばあちゃん走ってほわ」っていうのを嬉しそうに見てくれるっていうのは減りますね。子どもたちがやっぱり減って、だから大きい声を出す子が減って。だから賑わい自体やっぱり下がる面もありますし。で、競技も単純計算で言ったら半分じゃないですか、時間も短くなりますし。
[5]	一番皆に寂しいなって言われるのは運動会です。運動会はこの神社が併設なので、神社の秋祭りを地域の人も加わって貰って、小学校主体でやってたんですけどそれも小学校ももうないし、運動会を幼稚園だけで出来るかって言われたら幼稚園も2人なんで、地域との関わりは今年は余計に…
統合先の運動会	
[6]	自治会員とかは呼ばれるけど運動会に来てちようだいとかね。一般の人は呼ばれない…役員さんだけやね。遠いからね。自分の子どもとか孫とかがいてたらね。同じ豊能町内やからね、気持ちは一緒。こはあんまり出ていく人少ないけど、向こうの人はたいたいね。子どもさんがいてたらおじいさんおばあさんも含めてね、行きますね。

表6 祭礼・文化的資源の変容

祭礼等の文化資源が受ける影響	
[7]	御神楽とかは毎年やるけど、お祭りの日には2回御神楽。せやけど、太鼓は…もう乗り手やらかき手の不足やな。それが関わってくるのが今言ってる廃校に繋がってくるわけですよ。と言うのは、若い人たちが居なくなるから。子どもさんがいなくなるでしょ。そうすると乗り手もなくなると思うよ、関連と思うかな。
[8]	これはね、今まで毎年ずっとやってんけど、もう人手がのうてね、もう3年に1べんのようにしてますねんけど、また、地元の子どものさんが居れへんねや。乗り手が、せやけど、もう他所へ嫁いだ人の子ども、今までやったら男の子はっつとやっつたんだけど、男も女ももうないと言うて、乗ってらなっつとかな。うん。
[9]	神輿はあるんですよ。担ぐんですよ。昔なんて元気にあっちこっち走り回ったけど、いまや歩いてるわ。場合によっては軽トラに乗せてね。ひっぱる手がない。変わってきたな。時代の流れは仕方ないけどな。
[10]	ここには古典芸能っていうのがあるんですよ。御田の舞とか、仏の舞。古典芸能保存会っていうのがあって。それを小学生が学習発表会をする時には、役場で行って、私は保存会の会員でもあったさかいに、小学校中学校行って、そういう、古典芸能の指導をしたような。
その他の文化資源が受ける影響	
[11]	小学校ではそんな盆踊りとかそういうようなことはしませんでしたけど、中荘音頭っていうのがあるんですよ。それはずっと私たちが子どもの頃から宮滝音頭っていうのは運動会の時は必ず流して。地域の人も踊るし、地蔵盆踊るしといたかんじでしたな。(今は、宮滝音頭は聴く機会は)ないですね。
[12]	文化祭は基本的にほとんどが学校のプログラムで進んでいくんですけど、その中に、PTAの方が劇をしてくれたり、あとは地域のお年寄りの方が踊りを踊ってくれはったりとか。で、そういうのが一切なくなって。そしたら、そここの地域だけの踊り方とか衣装とかが何パターンもあったりして。それを見る機会も減るんですよ。子どもたちに、ここの地域にはこういうものがあるんだっていうのを伝えにくくなって言うのもありますよな。

6.5 人材・活動等の地域資源 学校が統廃合されることで学校関係者が地域から姿を消す。加えて、学校の無い地域には新たな子育て世代の家族が転入する確率は低く、学校の統廃合をきっかけとして今後の生産年齢人口の増加の可能性は廃校以前よりも格段に低くなる。一方、地域の活動資源は、C小校区の住民が学校統廃合を機に「このままではいけない」と感じ、自主的に文化的資源を保存していく団体を結成するなど、廃校を機に増加したものもある(表 7[15])。

6.6 コミュニティに所属する人間の関わり度合い 過疎化した地域では昼夜問わず外を出歩く人間にはほとんど出会わない。住民同士も普段の生活の中で近所の人間や、地域内の知り合いに会う機会がほとんど無い。学校には他の地域行事と比較して馴染みやささ、親密性が宿っている。学校行事へ参加することは住民にとってハードルが低く、参加することが当然であるという意識を多くの住民が持っている。住民が集まる学校行事は、普段会う事のない地域の端と端に住む住民間の貴重なコミュニケーションの場としての機能を果たしていた(表 8[16])。また、授業の一環として地域住民を講師に招く、小学生が直接見学に行くなど学校が上手く地域を活用している地域では、それだけ住民同士が出会う機会も多かった(表 8[17])。

6.7 地域への関心・愛着 学校は地域住民と地域の繋がりを取り持ち、媒介となって地域と住民を繋げていた。廃校以前に学校と地域が深く関わっていた度合いが大きい程、廃校後、地域住民の感じる喪失感は大きく、地域に対する諦めの意識を発生させている(表 8[19][20])。また「地域の学校」の消滅は、結果的に地域との繋がりを希薄にする(図 2)。

7. 地域力の変容に影響を与える要素

7.1 集落の規模・学校との距離 居住者人口規模が小さく、1つの町がそのまま校区になっていた地域では住民の学校への関心が強く、多くの住民が小学校を地域のシンボルとして位置付けている。チャイムの音や運動会の練習、生活道路沿いに見える学校の様子など、日常生活の中で学校や児童の存在を無意識に認識しており、廃校となった時により多くの変化と喪失感を覚えている(表 9[21][22])。このような地域では、学校が廃校となった後も、運動会に積極的に参加することで行事の盛り上がりを持続させようとしたり、地域独自の文化を継承して行く目的で団体を発足したりするなど、積極的な地域参加がみられる。

一方、居住者人口規模が大きく、校区がいくつかの町で構成されていた地域では、住民の学校への関心・意識にばらつきがある。校区が7つの大字から構成されているB小校区では、自宅が学校のすぐ近くにあった住民と学校から遠く離れた場所に住んでいる住民と

では、学校への関心に差がある(表 9[24][25])。このような地域では学校の持つ求心力、すなわち住民を結束させる力が弱く、地域の中で失われていく文化を存続させようとする活動も確認できていない。

表 7 活動等の地域資源の変容

廃校によって影響を受けた地域活動	
[13]	最初、学校の行事と合わせて日にちも決めたりとか、学校の青友会とか子どもたちも一緒にその、やってただけで、学校が統廃合して学校があつち行ってしまつたら、どうしようって話になったりとか、で、その上がった収益を、子どもたちのスキー研修のリフト代にしようとか、そういう資金を集めるような位置付けもあってやつたらいいんだけど。段々こう、主旨がどこへ行ってしまふようなことがあつたりして。
児童の減少・廃校によって新たに発生した活動	
[14]	この地域が初めて、学校を存続しようと言う存続委員会と言うものを、俺が会長でずっとやってた。(中略)それ、新し家のあるところ皆、そうや、あの、藤井、物部以外の名字が付いてるところ以外は、皆そうや。ほんで、Uターンもあつたわな。皆Uターンやんか。
[15]	今年地域に居る僕とかその、今で言うO B世代の人らが集まって、そのお年寄りたちに出来るだけしゃべってもらって。例えばボイスレコーダーで録音したりだとか、ビデオで撮影したりとか。それで色んな人を知ってもらおうっていう企画をやっている。そこで初めて、あ、こういうことがあつたんやなって知ることあつたりして。

表 8 コミュニティ・地域への関心・愛着への影響

学校行事が衰えていた地域コミュニティ	
[16]	学校の行事に、地域の方々が色々なことに参加していたんです。例えば、運動会とか文化祭とか。それが、一気に減ったんです。例えば、僕は上の方…端の方に住んで、そういう人って、なかなか反対側に住んでる方としゃべる機会って、そんなに無いんですよ。で、そういうのが学校の行事を通して、例えば子どもたちの文化祭の時にPTAで出し物をするとか…そういうのも無くなって。まあ、その、上と下での交流する機会が減ったりとか。(中略)行事の回数自体は減って減っているんで、交流する機会も減って。昔と比べて話す機会も減つたりもしますね。
[17]	地域の学習として、そこに傘屋さんがあつたんです。有名な、有名と言うかそれこそ手作り。大きな赤い傘を作つたりね。そんな方が居たはつたからその方のお仕事を覚えてもらつたり、そこに味噌醬油屋さんがあつたからそこを見学に行かして貰つたりっていうのは、だから地域と一緒に学ぶというので、もっと前から、出て行って、学んでましたね。だから、特別な何かあつていうのはいないけど。必要とする方を講師に招いたり、出て行って、稲の作り方を教えてもらつたりっていうのは。
統廃合への関心の低下	
[18]	ほんであの、ここで学校あつた時でしたらその、PTA外の活動でもほら、今やつたらほら、廃品回収とかやつてるらしいんです、続いてね。でもここでなくなつたらもう、別に協力するものなんか、向こうの学校だつたらあんまり知らんわつていう感じで、しなくつてね。やつぱり、子どもとかがいつたなあつて言うたらちよつと協力しようかあつて感じやけども。今の学校になつて全然もうね。
地域に対する不安・諦めの意識	
[19]	もう、(廃校)になつてしまつたら、どうしようもない…もう廃校になつてしまつたから、どうしようもありません。する前だつたらね…何とかなつたらうけど。
[20]	年寄りばかりなつたらね、もうだんだん、集落がなくなつていくん違うかなあつて、そういうのは思いますね。子どもの姿が見れへんし、子どもがおれへんて言うことは、若い人が居れへんて言うことやからね。働き手の若い人がいないから、子どもが居れへんていうことやから。そんなんで、この宮滝がいけるんかなあつて思つたりね。

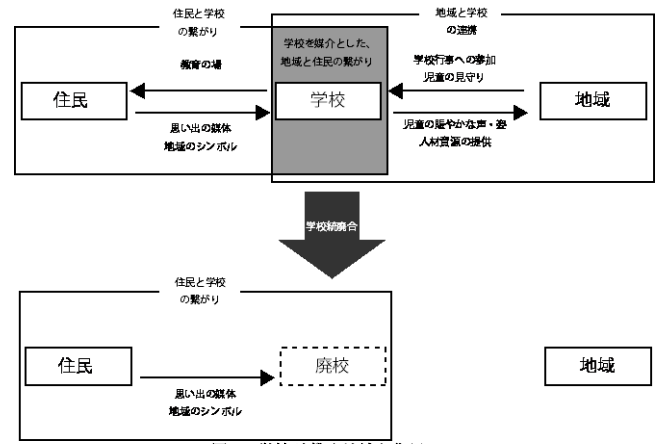


図 2 学校が繋ぐ地域と住民

表 9 集落の規模・学校との距離

学校との距離による意識の差	
[21]	(朝は学校に集まるんですか)そうです。はい、早かつたら遊んだりよ。それは賑やかだけど…まあ音楽聞こえてきたりね、運動会とかあつたらもう練習あつたらやましかつたりで…そんなんでまあ、ちよつと静かになつたつちゅう感じやな。
[22]	こら辺は子どもさんの姿も段々…いないから、子どもが遊んでいる姿が全然、見ないから。今までだつたらチャイムの音が聞こえてるし、子どもたちの運動会になれば運動会の曲で流れてる音楽が聞こえてるし、ということでもその元気を貰えてたん違いますか。
[23]	住民C: 私のことは学校から離れてるから…その声が聞こえなくなつたかとはあんまり感じひんね。 住民D: 私のところはな、朝起きてあれしたらもうね、子どもの聞こえてたから凄く寂しかりましたけどね。 住民C: 声の聞こえるけど、そんなにね、見えへんからうちは… 住民D: もうなんか、さみしい…なんか。もうな、集落が段々寂しくなるなあつて。
同世代の母親の意見の相違	
[24]	で、ここにもともとあつた小学校つてねここらだつたすく遠いんですよ、歩いて1番端つこくらいになるので、今バス通学で安心と言うか…その、長いこと歩いて、田舎やけどやつぱり家もないことも通るし、とかそういうこと思つたら、通学の面ではまあ安心かなあとか、思つたんですけど。(学校が廃校になつて感じた変化)それは寂しいと違ひますか。なんかつて、でも自分の子どもに關しては、合併になつて思つてずっと来てたから、そういうもんと思つて受け入れてるけど…
[25]	もちろんその、運動会の練習の音とか、学校のチャイムとか…その何でもないことが、今もう全然ないです。(中略)まあでも不安の方が多かつたね。この学校どうなるんやろ。壊されていくんやろうとか。子どもがまた増えたら使つてくれるんやろうとか…そういう、廃校になつて良いと思つたことは無かつたです。不安の面が。

7.2 廃校後の時間経過 廃校直後に地域に訪れる変化が廃校の一次的影響である。これは、前節で明らかにした地域力の6つの評価軸への影響である。

廃校直後は学校が無くなったことを強く実感しており、地域への関心も一時的に高まる。しかし、時間の経過と共に住民の意識の中から学校統廃合当時の強い焦燥感や喪失感徐々に失われていく。A小学校の廃校は平成17年に行われた。廃校から7年経過した現在では、地域の期待を背負って設立した廃校利用施設、高山コミュニティセンターの存続について、地域の意見が二分している(表10[26])。

廃校の二次的影響は、廃校の一次的影響から発生する問題や、新たな活動である。E小学校校区の運動会は無くなってしまったが、運動会の代わりに住民がカラオケや踊りを披露する民芸大会へと行事が変容したり、以前は公民館で行っていた自治組織の活動場所が廃校利用施設へ移動したりしている。廃校後しばらくして住民が地域力の低下を感じ取り、文化の保全活動を開始する動きもある。これも廃校の二次的影響といえる。

7.3 廃校活用の有無 廃校後の校舎の活用は地域の活力に大きな影響を与える。廃校活用の主体は地域住民が行う場合と、外部の団体が参入する場合がある。

廃校以前に地域住民同士で学校を通じたコミュニケーションをとっていることは、その後の活用方法・活用の有無に影響を与える。廃校活用を訴える住民には、廃校以前から使用していたのだから廃校後も勿論使いたいといった継続の意志や、日常的に活用する事で校舎に対する愛着がより深まり、どんな形であろうと保全・活用を行い廃れさせるようなことはしたくないと言う場所への愛着の意志が働いている。

また、旧小中学校校区に沢山の人を収容することのできる地域会館が他に無かったA小校区は、廃校後老人会の総会や生活改善グループの活動など、以前は別の場所で行われていた活動を廃校活用施設へ場所を移している(図5)。

廃校後の校舎の活用も地域住民のこうした学校への意識に配慮し、活用段階では住民が主体的に関わっていけるような仕組みを作っているB小校区の廃校活用団体の活動は地域住民にも好評である(表12[27])。廃校以前から住民が活用していたグラウンドや体育館の活用に関しては、廃校の前で変わらず活発に活用できるよう配慮されている。また、廃校活用団体の一員が担ぎ手不足で開催が危ぶまれていた秋祭りの神輿を手伝うなど(図3)(表12[31])、地域のコミュニティに上手く溶け込みお互いに利益をもたらす、良好な関係を築いている。

表10 廃校後時間の経過がもたらす意識の変化

[26]	(学校跡地がコミュニティセンターになるのは住民の方にとっても嬉しいことですよ) そうなんです。ただね、その意志も薄れていくよね。時間が経つとね、ほんとはそういうものね、公共にしておきたいっていうのを色々やってるんですよ。薄れてきてるよ。もうなかつてもええやんっていう人も大半…もう半分半分やね、ぐらいいなくなりましたね。だからそれがいかんと言う事で私は頑張って色々やってるんですよ。難しいですね。ありますよそんな人は、うん…。だけど、いや、ずっと残しておいて欲しいって人もいるし、やっぱり半分半分くらいやね。だから私は残そうと言う方に入っているから色んなことをやってるわけですね。何らかの形で残そう。
------	--

表11 廃校活用概要一覧

旧校名 (現在の名称)	廃校年	活用開始年	管理主体	主な用途
A 旧 Tk 小学校 (Tk 町立コミュニティセンター)	H17	H21	豊能町	地域施設
B 旧 Nk 小学校 (My 野外学校)	H19	H22	一般財団法人大阪府青少年活動財団	野外活動 宿泊施設
C 旧 Bs 小学校	H19	H19	野外活動団体 Bs 自治会	野外活動 地域行事
D 旧 Ng 小学校	H21	H21	Kn 市教委	会合
E Ys 小学校	H24 (体校)	H24	Kg 町教委	地域行事



図3 B小校活用団体が秋祭りに参加



図4 D小校舎は取り壊され駐車場に

配置概略図

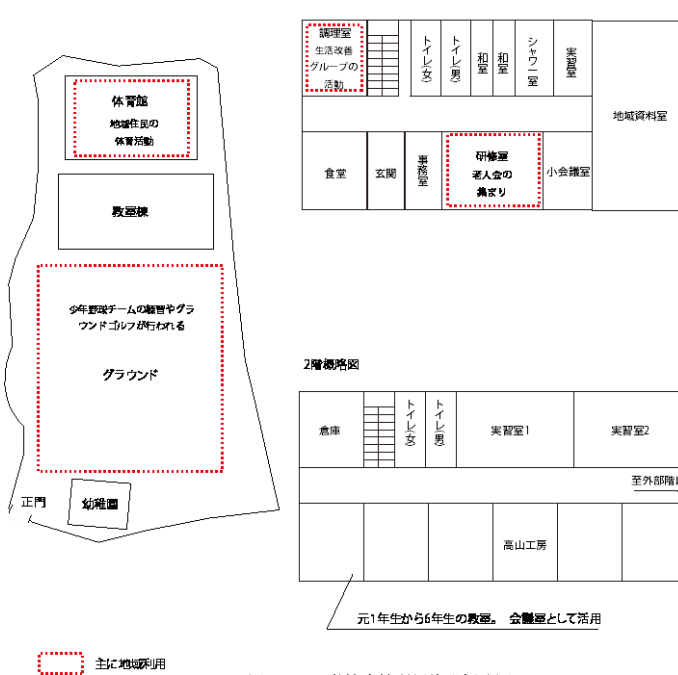


図5 A小学校廃校利用施設概略図

表12 廃校活用に関するヒアリング

廃校活用—地域の意見	
[27]	使ってくれた方がいいと思いますよ。私はね。あんたともう真っ暗になってね、大きなところが夜真っ暗になってるのは…あんまりいいとこないしね、やっぱり夜でもあかあか電気灯ってたりね。子どもの声がわーわーしてますやんか、やっぱりそれは、ええことと思いますよ。
[28]	これはまあいいことだと思いますけど。家にだけおいたら近所の人とあんまり顔合わせる事もないでしょう。
[29]	この地域は…学校なくなっても、この建物とか環境自体は、今後もやってくつりついで地域の人がいて。っていうのがあったんで、「最初から残したいな」っていう話をして。だから自分もそういう風にお祭り騒ぎが大好きやから、そういうのが無くなるのは嫌やから、前もってそういうのはやめといて言うの言っといたみたいです。
B小校区活用団体と地域の関係	
[30]	運動会の話もね、最初はグラウンドだけ貸してねっていう話やった、1年目は、で、グラウンドだけ貸してねって言われたらね、こっちは、お茶の用意したり、色々お手伝いするやんか。ほんなら徐々に期待されるんやわ。今年は、集落に入ってくれて。選手として、助っ人で。綱引きするっていうたらその中に入ったり。いきなり色んなものが言われると言うよりは、徐々に、
[31]	地元民では無いけども、それでも気さくに声をかけてもらうようになったり。祭りの後先では…あの祭りの後ではずいぶん変わった。今までも、挨拶したりすることはあったけど、あの祭りは、それは我々も意外やった。祭りに対する地元の人たちの想いは、我々以上に大きかったし、神輿が担げないかもわからん、その困った度は、我々が思う以上に大きかったし、我々にしたら、ちょっと引越し手がいるからお手伝いしようかっていう軽い気持ちは、我々思ってる以上に向こうの人に取ったら、なんか救世主やったみたい。

表 13 調査対象校の学級編成

校名	閉校時学級数	閉校時児童数	学級編成
A 旧 Tk 小学校	3	13	単式
B 旧 Nk 小学校	6	30	単式
C 旧 Bs 小学校	2	3	複式
D 旧 Ng 小学校	3	26	複式
E Ys 小学校	1	2	複式

表 14 小規模校における子育ての利点・問題点

小規模校が育む児童像	
[32]	積極性と言うか、一つのことをするにしても、自分が動かないと、物事が進まないというのと、人数が大きかったら、掃除当番が 10 人いてるよってなったら、自分はしなくても、まあ 9 人がすれば、物事は進んでいくわけじゃないですか。でも、そやったら、掃除当番 2 人しかいなくて、ってなったら自分がしなくて、何事も進まないってなったら、積極性と言うかその、先生とか大人に言われたことは僕がせなあかんのやっていう、そういう事を思うっていう風には育つてると思っています。大きなところに行っても、野球とか、うちの息子、野球やってるんですけどじゃあその時に、グラウンド整備せよってなった時に、一番最初に道具を持って飛び出していくっていう風に育ててもらったのか、育ったのか分らないですけど、それは見て思うところ。まあ、あと、あとはその、上下関係ですかね。やっぱりその、先輩は先輩、年下の子は年下の子って言う、その長いスパンで付き合える、そういうのは見えて、扱い方とか対応の仕方とかはああ、分かっているなあとは思っています。
[33]	やっぱり良く言われているね、競争力、分りにくいなって思う。無いんじゃないけど。やっても、順番がつくわけじゃなくて。クラスに 3 人とか、おとしたしたら、もうそれは順番じゃなくて、並びみたくになっちゃって…そういうのは、どうなんかなあって思います。あ、それって、その、小学生とか中学生で付けないかなあっていうことあるとは思う。そういうところだけね、強調する必要はないかなあ。そういう事もあるんだってことを覚えていながら中学校高校へ行って、やっぱり…頑張らないかなあとか、自分はこの辺かっていうのを分かればそれはそれでいいかなあとは。
[34]	…それは若干やっぱり不利かな。競争がないんですよ。競争が無いから、競争心が無い。だって、学年に 1 人しかいないんで、1 番だから。(笑)競争心がないから、そういう面では、ある程度の競争はあった方がいいかなって、落ちこぼれもいやけどね。
母親の孤立化	
[35]	ストレスを発散できないお母さんと言うか。お母さん同士の仲間がいない。それが凄くね、必要やなくていう感じで。いつもこう、寄り集まったりとかの相談を受けたりはするんやけど、お母さん同士同じように子育てしてる人と友達関係を作るのが 1 番いいのになって思ってる。で、そういう友達作りが下手なんで、今のお母さんはね。中に入って、一緒に遊びに行ったりとかすると、行ったり来たり出来るようになったりっていうのがあったので、やっぱりきっかけづくりって言うのもしないといけないなって言うのがあって。

表 15 教育・育児上の工夫

交流活動の機会の提供	
[36]	前は交流会とか言って、ちっちゃな校区のちっちゃな学校が交流会するだとか、あのちっちゃい学校と全部交流してはったんでね。だから、東勢小学校にはしててもたな。ほんで、中学校行っても、向こうは知ってくれてはるねん、少ないからね、4.5 人で行くわけですよ。こっちは名前も知らないからね。子どもは転校してきたけど、向こうは知ってくれてはるから。
[37]	やっぱり、保育園行ったら人数多いところじゃないですか。幼稚園とかで。だから自分を発揮できないっていうね。やっぱり少人数のところ行けば自分を出せる場所、ということで土曜保育へ行く。やっぱりそういう場は必要ですよな。
[38]	終わってからも、野球に連れてったりとか。そういうのも居てるし。ちっちゃい子どもたちは居ないけれども、子育て支援センターとかもあるし、下で集団遊びが出来るような機会を作ってくれてるんで、行こうと思えば行けるって言うのもあるんで。行けるようになったら、十分こども、自然がいっぱいやし、この地域の宝物かな、大事にしようとするので…おれなことではないかと思えますけど、保護者がどんな想いで…自分らが引っ込まないで、外へ出ていけるかっていうのがあかな。
保護者が行う育児上の工夫	
[39]	その…まあ、父親の目から見ても、早いかな、こういう風にはなるであろうとは思ったので、準備じゃないんですけど、考えて、息子も娘も野球をさせたんです。そう、集団の中に。それって、こっちはなくて、下の方へ、土日だけ通って…集団と言うか友達を作ろうっていう。まあ大きな中学校へ行っても知ってる子はいって…そういう状況を作ってあげようと思ってる、まあ、子どもに野球をさせたんですよ。まあ親が大変で、日曜日は朝が早いし、送り迎えもあるし、出たままになってしまっ…それは大変ですけど、まあ、そういう準備をいしとけば小さい小学校のデメリットって、ほとんどなくなるような気がしましたね。特に息子は、女の子はやっぱり難しいですけど。

表 16 過疎地域における子どもの存在

通学路沿いの住民と児童の関係	
[40]	住民 E: 小学校がある時はね、ここは田んぼだったんよ。ここで大勢はってね、ずうっと通って言ったら田んぼへまくれこむ人がこうね、幼稚園やとかね、小学校低学年の、田んぼへようこへまくれこんだ。 住民 F: はいはい、よそ見て歩いてな。おいやん送ったことあるよ、家まで。 住民 E: 送ったりね、はき替えさしたりね。ふふふ。 住民 F: 色んな事してたよ。おいやんが道もちょっと舗装したけどな。土の道やったしね。 住民 E: 舗装はしとったけど田んぼはそのままでね。そしたら子どもは、すぐ落ちこんだ。へへへ。 住民 F: よそ見て、ほんで…まくれこんだな。 住民 E: よう田んぼ落ちて、なにしたな。必ずって言っていいくらい、毎年。そんな。
地域住民と子ども	
[41]	皆大事にしてんね。唯一の子どもなんや。皆大事にしてくれます。皆知っててくれます。もう子どもが居るだけで皆、喜んでくれます。出会ったら大きくなったなあみたいな感じで。ちっちゃい頃から知ってるんで。もう、こないになったかあ。声掛けてくれたり、はい、それはありがたいですね。
[42]	とにかく私も子どもが出来るから、あの、話しかけてもらえることも多くなつたし…みんなが子どもを可愛がってくれると言うか。ちょっと私が用事してても、誰か見ててくれて。あつこの子やからって言う感じで。ま、だからみんなで大きくなってはるような。街にはない、いいところがあるからね。
E へ通おうと決意したきっかけ	
[43]	この子と近所ろろしてたら、やっぱり皆顔出して、おばあちゃんとか。ああ、どの子やー、みたいな感じで。皆にこにこしてさ。あそこの小学校行ったらええわ、おばあちゃん知らんねんけどその、休校なとか知らんねんけど、そこやったらええとか言ってる。行ったらええわって。多分、うちがそこに通うようになって、毎日通つたらおばあちゃんその時間に顔出して行つてらっしゃいと聞いてるんやろうなって感じたから。なんやろ、また村の雰囲気変わるんやろうなって凄く感じたから。1 人でもそれは違うと思う。

8. 小規模校における教育・育児の実態

8.1 小規模校での児童の特性

小規模校に通う児童、特に複式学級を経験している児童は小学校の全校児童数が少ないことから「自分がやらないと、誰もやらない」状況に常に置かれていることで、行動をとる上での積極性を身につけている(表 14[32])。一方、集団行動を学ぶ機会は非常に制限されており、このことから競争力を育むことが困難だと指摘する保護者も少なくない(表 14[33][34])。このような小規模校では積極的に規模の大きな小学校や幼稚園との交流を取り入れている。交流活動によって児童間だけでなく過疎地域では孤立する恐れのある、幼い子を持つ保護者間のコミュニケーションの場としての機能も果たしている。また保護者自身も子どもの集団への適応がスムーズにできるよう、同じ中学校へ通う予定の児童が所属するスポーツチームに所属させ、入学以前から知り合いを作っておくことで、こうした小規模校でのデメリットは努力次第で十分克服できると断言している(表 15[39])。

8.2 地域住民による見守り

それぞれの地域住民は「子どもは地域の宝」と言う言葉がまさしく当てはまるような態度で児童を大切に扱っている(表 16[41])。このような暖かな見守りの中で子どもを育てたいと感じ移住してくる親子が現れるように(表 16[43])、住民同士の繋がりの希薄化した現代で、過疎化地域で子育てを行うことは複数のデメリットを十分に補う事の出来る魅力を持っている。

9. 結論

「地域の学校」は地域独自の文化を守り、行事で賑わいを提供し、子どもの地域への愛着を育んできた。学校の統廃合が行われることで学校を中心に築かれてきた住民同士の繋がり・活動の歴史を脅かしている。学校統廃合は地域力の評価軸 6 項目(地域住民が共同で地域を変える事の出来る行動力の元となるもの)に影響を与えており、確実に地域力の低下を引き起こしている。一方で統廃合を契機に住民自身が地域の現状を把握し、主体的に地域の再興を目指す動きがみられる。このような働きは統合後の地域の新たな資源としての役割を果たす。

たとえ小規模校であっても、地域資源や他の学校との交流活動を積極的に採り入れ、また保護者自身も子育てを行う上で工夫を凝らしている。このような努力を行うことで児童数が少ないことが引き起こすデメリットを打ち消すことが可能である。

統廃合が行われてしまった地域でも廃校をどのよう利活用するか、校舎の活用にあたって住民の学校への愛着や新密度を考慮した活用を行うことで廃校後の地域力の変容、低下の速度を緩やかにすることが可能である。